

陸上競技実施要領（案）

1 競技規則

競技規則は、令和3年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和3年4月1日より実施分発行）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 練習

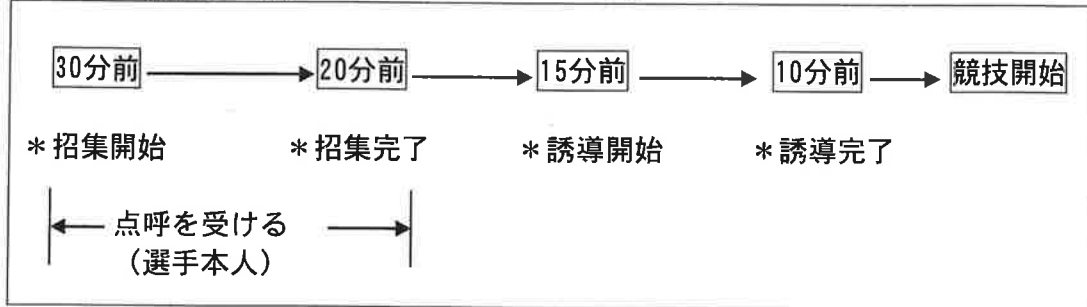
大会当日の練習は、安全に注意しながら競技場周辺で行うこと。

3 招集

(1) 招集所は、陸上競技場の第4ゲート付近に設ける。

※ 雨天時の招集所は、雨天練習場北側倉庫内に設ける。

(2) 招集の流れは、競技開始時刻を基準として次のとおりとする。



(3) 招集の方法は次の順とする。

① 競技者は、競技開始時刻の30分前から20分前までに点呼を受ける。

代理は認めない。

なお、点呼の際は競技役員にユニフォームに付けた番号布（ナンバーカード）を見せ確認を受ける。

② 点呼を受けた競技者は、競技誘導者の指示に従い誘導のための整列をする。

③ 招集完了時刻に遅れた選手は棄権したものとみなし、競技に出場できない。

4 競技場への入場

競技場への入場は、招集完了後、競技役員の誘導により行う。

（選手、介助および伴走者以外の競技場内への立ち入りは一切禁止する。なお、あらかじめ介助および伴走を届け出ている選手、視覚部門の障害区分24の選手は、招集場所で介助・伴走者用ビブス、アイマスクを受け取り入場すること。アイマスクは、競技開始前に着用すること。また、選手の競技終了とともに速やかに終了者控所にて係へビブス、アイマスクを返却すること。）

5 競技の服装

(1) 競技を行うときは、ユニフォーム（ランニングシャツ等）を着用すること。

(2) 主催者が配布した番号布（ナンバーカード）は、ユニフォームの胸部及び背部に付けること。ただし、跳躍競技は胸・背部いずれか一方に付けること。

(3) トラック競技においては、競技役員から腰ナンバーを受け取り、右腰（車椅子競技者はヘルメットまたは右肩）に貼り付ける。なお、出場者が1名の種目においては、腰ナンバーを配布しない。

(4) 競技にスパイクシューズを使用する場合は、競技場が全天候型であるため、スパイクのピンの長さは、9mm以下とする。ただし、走高跳、ソフトボール投、ジャベリックスローの場合は、12mm以下とする。

6 競技方法

(1) 身体障がい者の部の競技は、原則として1部（39才以下）と2部（40才以上）とに分けて実施するが、競技運営上、1部・2部を同時に、又、他の障害区分と同時に実施することがある。

また、知的障がい者の部も原則として少年（19才以下）と青年（20～35才）と壮年（36才以上）とに分けて実施するが、競技運営上、少年・青年・壮年を同時に実施することがある。

(2) トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載の順序とする。トラック競技で棄権がある場合は、そのレーンを空けて実施するものとする。

- (3) セパレートレーンで行う種目は、50m、100m、200m、400mとする。800mでは最初のカーブが終わるまでセパレートレーンで行う。
ただし、知的障がい者の800mは、オープンレーンで行うことができる。
- (4) 競走競技で故意に他の競技者を妨害した場合は、その競技者を失格させる。
なお、この場合の再レースは行わない。
- (5) スラロームは、女子100mと同時進行で行い、走幅跳助走路で実施する。
- (6) 50mのスタートは、すべてスタンディングスタートとし、スターティングブロックは使用できない。
- (7) 視覚部門の障害区分24に属する者の50mは8レーン分の幅を使用する。使用する音源はハンドマイクに収納した音響を用いる。また、競技役員が安全上やむなく声や身体に触れるなどによって方向を指示した場合でも、競技は成立するものとする。
- (8) 視覚部門の障害区分24に属する者の50mを除く競走競技では、次のような範囲で伴走者を認める。ただし、伴走者の反則は競技者の反則とする。
- ア 1人とする。ただし、フィニッシュラインの50m手前までならば1回に限り交代してもよい。
- イ いかなる場合も、伴走者は競技者を引っ張ったり、押して前進させるといった推進を助けるようなことをしてはならない。
【注】 推進を助けるような行為があった場合、フィニッシュ後に失格となる場合がある。
- ウ 手をつなぐとか、50cm以内の紐等を持つことによって走路の指示をしてはならない。
- エ 声をかけて走路の指示をしてはならない。
【注】 フィニッシュで、競技者の斜め後ろに位置しなかった場合は、失格とする。
- オ 安全管理上やむを得ない場合は、競技役員が声や競技者の身体に触れるなどによって方向を指示した場合でも競技は成立するものとする。
- (9) 視覚部門の障害区分24は、光を通さないアイマスクを装着しなければならない。したがって、走路へ入る前にアイマスクを装着し、走路を出るまではアイマスクを外してはならない。（スターティングブロック設置等の行為はアイマスクをした状態で行う。）
- (10) 跳躍（走高跳を除く）・投てき競技の試技は3回とする。ただし、立幅跳と投てき競技は連続して3回の試技をする場合がある。
なお、フィールド競技の場合、練習は試技順に原則として1回とする。
- (11) 走高跳のバーの最初の高さは、全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説P19）及び参加申し込み時の申告を参考に決定する。バーの上げ方は、2cmずつとする。
- (12) 視覚部門（24、25）の立幅跳及び投てき競技については、必要に応じて競技役員又は、競技補助員が方向を指示するものとする。
- (13) スタートについては、「イングリッシュコール」とし、不正スタート（フライング）は1回目で失格となる。イングリッシュコールは、「On your marks」（位置について）—「Set」（用意）となる。

7 退場

競技が終了した選手は、競技役員の指示により退場すること。

8 表彰

- (1) 各種目、各組単位で障害区分ごとに1位から3位までの入賞者を表彰する。
- (2) 表彰は、各種目・各組競技終了後直ちに行うので、1位から3位までの入賞者は、係員の指示に従い、入賞者控所に集合する。

水 泳 実 施 要 領 (案)

1 競技規則

競技規則は、令和3年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和3年4月1日より実施分発行）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 招 集

- (1) 招集は、水泳会場で行うので、係員の指示に従うこと。
- (2) 招集は、競技開始時刻20分前に完了すること。
- (3) 招集に遅れた選手は、棄権したものとみなす。

3 競技方法

(1) 選手の紹介

競技前の選手の紹介の際は、椅子から立って紹介を受ける。ただし、車椅子使用者及び立つことが困難な選手は、座ったまま片方の手をあげる等により紹介を受ける。

(2) 介 助

下肢障がい者及び視覚障がい者で、プールの出入り等で補助を要する者には競技役員及び補助員による介助を行う。

(3) 誘 導

競技場内での誘導は、競技役員が行う。

(4) 障害区分23の者は「本人が準備した」光を通さないゴーグルを装着し競技終了まで外してはならない。

(5) 障害区分23の者及び同等の障害が重複する者のゴールとターンでは、競技役員または許可された者が安全な棒などを使って身体をたたいて合図（タッピング）しなければならない。障害区分24の者には行うことができる。

4 番号布

番号布は、主催者が交付したものを使用し、水着以外のユニフォーム等に縫い付けるなどして、招集の際に競技役員に見せること。

5 競技会場

- (1) 水泳場においては、事故防止に十分に気をつけること。
- (2) 会場の秩序については、競技役員の指示に従うこと。

6 表 彰

- (1) 各種目、各組単位で障害区分ごとに1位から3位までの入賞者を表彰する。
- (2) 入賞者の表彰は、組別の競技終了後に行う。

アーチェリー実施要領（案）

1 競技規則

競技規則は、令和3年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和3年4月1日より実施分発行）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 競技方法

- (1) 競技種目は、男女とも次のとおりとする。
 - ア 50m・30mラウンド
50m、30mの各距離から1エンド3射（2分）で36射ずつ行射する。
 - イ 30mダブルラウンド
30m、30mの各距離から1エンド3射（2分）で36射ずつ行射する。
- (2) 部門は、リカーブ部門とコンパウンド部門とする。
- (3) 標的は、次のとおりとする。
 - 50m・30mラウンドでは、80cm標的面を使用する。
 - 30mダブルラウンドでは、80cm標的面を使用する。
- (4) 試射・行射数及び行射時間は次のとおりとする。
 - ア 試射は、競技の最初に3射（2分）を2回行う。
 - イ 行射数は、各距離においてそれぞれ1エンドに3射ずつ計36射とする。
 - ウ 行射時間は、1エンド3射2分以内とする。
- (5) 採点行為（看的行為）は、主管競技団体に委任するものとする。

3 用具及び安全確保

- (1) 弓具及び防具は、出場選手が用意して参加すること。
- (2) 矢（アロー）には、必ず規定のネームを記入すること。
- (3) 水平の引き打ち、引き戻しの励行。（暴発防止のため）

4 番号布

番号布は、主催者が交付したものを使用し、背部に付けること。

5 表彰

1位から3位までの入賞者の表彰は、全競技終了後に行う。

卓球実施要領(案)

1 競技規則

競技規則は、令和3年度全国障害者スポーツ大会競技規則(令和3年4月1日より実施分発行)によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 招集

- (1) 招集は、卓球会場で行うので、係員の指示に従うこと。
- (2) 招集は、競技開始時刻10分前までに完了すること。
- (3) 招集に遅れた選手は、棄権とみなす場合がある。

3 競技方法

- (1) 競技種目は、一般卓球とサウンドテーブルテニス(略称STT)とし、3ゲームマッチ(1ゲームは11点)、サービスは2本で交替する。
- (2) 競技は、原則としてトーナメント形式によって勝敗を決める。
- (3) 障害区分別で参加者が少ない場合は、別の障害区分の者と対戦することがある。ただし、この場合の順位の設定、記録の認定及び表彰は、それぞれの障害区分毎に行う。
- (4) 視覚障害部門で、視力・視野の程度に関わらず、アイマスク・アイシェードの有無で出場競技を分ける。
- (5) 精神障害部門は、年齢区分なしとする。

4 競技用具

- (1) 一般卓球の使用球の色は白、直径は40mmのものを使用する。
- (2) STTの使用球は競技規則のとおり(直径は40mm)とする。

5 番号布

番号布は、主催者が交付したものを一般卓球は競技用服装の背部に、STTは競技用服装の胸部に付けること。

6 表彰

1位から3位までの入賞者の表彰は、全試合終了後に行う。

7 その他

- (1) 下肢障害者で、義肢、松葉杖等を使用する選手は、特に支障のない限り、接触面に当てるための布やカバー等を用意すること。
- (2) STTに出場する選手は、各自で用意したアイマスク・アイシェードを着用すること。

フライングディスク実施要領

1 競技規則

競技規則は、令和3年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和3年4月1日より実施分）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 競技方法

- (1) 種目は、アキュラシーとディスタンスとし、すべて競技役員（審判員）の指示にて進行すること。
- (2) アキュラシー（ディスリートファイブ、ディスリートセブン）
 - ア プレーヤーは、10投連続して試技するものとする。
 - イ スローイングの方法は、どの投げ方でも認められる。
 - ウ 試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから5分とする。5分を超えた試技は、無効とする。
- (3) ディスタンス（立位、座位）
 - ア プレーヤーは、1投の練習（テストスロー）の後、連続して3投試技するものとする。
 - イ スローイングの方法は、どの投げ方でも認められる。
 - ウ 試技の時間は、プレーヤーが1投目のディスクを受け取ってから3分とする。3分を超えた試技は、無効とする。
 - エ 記録は、3投中最も距離の遠い着地点を計測する。
- (4) 競技上有利となる用具の使用は認めない。

3 招 集

- (1) 招集開始時刻は、原則としてその組の競技開始20分前とする。
- (2) 選手は、競技開始10分前までに選手招集所に集合し、番号布等により競技役員の手呼を受けること。
- (3) 招集に遅れた選手は棄権したものとみなす。

4 用 具

競技に使用する公式ディスクについては、主催者で用意する。

5 番号布

番号布は、主催者が交付したものを使用し、胸部と背部にしっかりとつけること。

6 表 彰

各組終了後、1位から3位までを表彰する。

ボウリング実施要領(案)

1 競技規則

競技規則は、令和3年度全国障害者スポーツ大会競技規則(令和3年4月1日より実施分発行)によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 競技方法

- (1) 競技方法は、シングルレーン方式(1つのレーンで投球)で行う。
- (2) 競技はスクラッチ(ハンディキャップなしの記録)2ゲームマッチとその合計により順位を決定する。
- (3) 隣りあったレーンで同時に投球姿勢に入った場合は、右側レーンの選手を優先する。
- (4) 自動式ファール判定機は、使用しないで競技を行い、ファールラインを超えても意図的なものでない限りファールとしない。
- (5) オートマチックスコアの操作、個人記録カードの記入は、全て競技委員が行う。
- (6) 競技は、全て競技役員の指示に従って実施する。

3 開始式

- (1) 開始式は、令和3年5月9日(日)に、競技会場にて行う。

4 表彰

- (1) 表彰は、競技終了後直ちに行う。
参加者が多くシフト制をとる場合は、各シフト競技後とする。
- (2) 各組の1位から3位までを表彰する。

5 招集

- (1) 招集開始時刻は、原則として競技開始20分前とする。
- (2) 招集完了は、競技開始10分前とする。
- (3) 招集完了時刻に遅れたものは、棄権したものとする。

6 競技服装

- (1) 服装は、ボウリング競技をする上で、支障のないものを着用すること。
- (2) ソックスは、各自で準備し、必ず履くこと。
- (3) 番号布は、主催者が交付したものを使用し、背部につけること。

7 その他

- (1) 選手は、競技中ボウラーズエリアを離れてはならない。
やむを得ず離れる場合は、必ず競技委員に申し出ること。
- (2) ボウラーズエリアへの立ち入りは、競技役員・実施本部役員・選手及び選手一人に対して一人の監督またはコーチとする。
- (3) ボウラーズエリア内の飲食・喫煙は禁止とする。
- (4) 競技会場のハウスシューズ・ハウスボールを使用する場合は、会場の受付で申し込むこと。ハウスシューズ代金は自己負担とする。
ア ハウスシューズの履き替えは、ボウラーズベンチで行う。
イ ハウスボールは所定の場所から選んで使用し、競技終了後速やかに返却する。
- (5) ボールを拭くタオルは、競技場に用意する。
- (6) 競技上不明な点は、競技本部に問い合わせること。

ボッチャ実施要領(案)

1 競技規則

競技規則は、令和3年度日本ボッチャ協会競技規則及び全国障害者スポーツ大会ボッチャ競技規則によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 競技方法

- (1) 車いす又は椅子座位、立位の個人戦で行う。
- (2) 各パートで決勝リーグ戦を行う。
- (3) タイブレイクの場合を除いて、1試合は4エンドで実施する。
- (4) ウォームアップは2分、試合時間は1エンド4分(ランプ使用は6分)で行う。
- (5) 選手は、交替でジャックボールを投球してエンドを開始する。
- (6) 選手は、6個のカラーボールを使用する。赤ボールを投球するサイドは3番のスローイングボックスで、青ボールを投球するサイドは4番のスローイングボックスで試合を行う。
- (7) マイボール・ランプを持ち込まなかった選手は、大会運営側で準備した用具を使用する。
- (8) アシスティブ・デバイス(補助具=ランプ)は、横に倒したときに2.5m×1mのエリア内に収まるような寸法でなければならない。

3 開始式

開始式は、令和3年5月9日(日)に、競技会場にて行う。

4 表彰

表彰は、各パート1位から3位までを表彰する。

5 招集

- (1) 招集開始時刻は特に設けないが、前の試合が終了する前には次の試合の選手はコートに集合すること。

前の試合が終了次第、選手の確認と先攻・後攻等を決める。

6 その他

- (1) 審判がコインをはじき、勝った方が赤サイドか青サイドのどちらかを選択する。
- (2) 両サイドがすべてのボール(ペナルティボール)を投球した後、審判は得点を宣言し、エンドの終了を宣言する。(競技アシスタントはこのタイミングでコートを振り返ることができる。)
- (3) 競技アシスタントは、審判の許可を得てからコートに入ることができる。
- (4) 審判が開始の合図、あるいはどちらのサイドの投球順番かを指示するまではジャックボール、カラーボールを問わず投球してはならない。
- (5) 競技上不明な点は、競技本部に問い合わせること。

バレーボール実施要領（案）

1 競技規則

競技規則は、令和3年度全国障害者スポーツ大会競技規則（令和3年4月1日より実施分発行）によるものの他、この要領に定めるところによる。

2 施設と用具

- (1) コートは18m×9mの広さを持つ長方形とする。
- (2) ネットの高さは2m24cmとする。
- (3) ボールは（財）日本バレーボール協会制定のソフトバレーボール球・糸巻き（モルテン製円周78±1cm、重量210±10g）の規格のものを使用する。色については規定しない。

3 競技参加者

- (1) 試合は6人制で行う。（必ず女性選手が常時1人以上出場していること。）

4 競技方法

- (1) 予選は、リーグ戦方式とし、決勝は、トーナメント方式とする。ただし、参加チーム数によっては、全てトーナメント方式で行うことがある。この場合、以下の規定の内、予選リーグは適用しない。
- (2) 試合は3セットマッチとする。
- (3) 予選リーグで勝率が同率の場合は、セット率、得点率の順番で順位を決定する。
- (4) 最終セット（第3セット）でリードしているチームが13点に達した時には、ただちにコート交替をする。
- (5) それぞれのチームには、1セットにつき最大2回（1回30秒間）のタイムアウトと6回の競技者の交代が認められる。（タイムアウトは、監督あるいは監督が不在の場合はゲームキャプテンが要求できる。）交代の際には、6人制競技規則に基づいた交代の方法を取る。
- (6) スターティング・ラインアップの競技者は交代によりコートを離れても、1セットにつき1度だけスターティング・ラインアップの元のポジションに戻るることができる。
- (7) 例外的な交代として、負傷した競技者の代わりに、その時点でコート上にいないいずれかの競技者と交代ができる。ただし、交代後も必ず女性選手が1人以上出場していなければならない、不可能な場合には、その時点でゲーム終了とし、そのセットより無効となり不戦敗とする。
- (8) サービスの実行
 - ア 主審がサービス許可の吹笛後8秒以内にボールを打たなければならない。
 - イ サーバーはエンドラインの後方、かつサイドライン延長線の内側で打たなければならない。その際にエンドラインを踏んではならない。
 - ウ サービスはボールがトスされたか、手から離された後、片方の手または腕で打つ。（片方の手のひらに置いたままのボールを、もう片方の手で打つことはできない。）

エ サーバーがサービスを打つ順番は、事前に提出されたサービング・オーダーに従わなければならない。

(9) プレー上の動作

サービスを直接アタックもしくはブロックして相手コートに返すことはできない。

(10) 競技者は、フロントやバックなどの位置による一切の制限を受けずに、自由に移動してプレーすることができる。

(11) 試合開始時刻(下記の時刻を原則とするが、選手の状況により柔軟に対応する)

ア プロトコールは、日本バレーボール協会6人制競技規則に準拠し11分で行う。

イ 予選リーグは、前の試合終了10分後にプロトコールを開始する。

ウ 予選リーグ最終試合終了30分後に決勝戦及び3・4位決定戦のプロトコールを開始する。

5 服装

(1) ナンバーは、ユニフォームの胸部と背部の中央に付けなければならない。

(番号布の大きさは胸部10×10 cm、背部は15×15 cm、字幅は2 cmとする。)

(2) チームキャプテンは、胸のナンバーの下にマーク(横線)を付けなければならない。

(3) ユニフォームには必ずチーム名を入れなければならない。ユニフォームに入られない場合は、番号布に記入する。

(4) 監督・コーチ・マネージャーは、それぞれワッペンを付けなければならない。

6 監督・コーチ・キャプテン

(1) 競技中断中の時、ゲームキャプテンだけが審判に対して話すことができる。

(2) 監督はベンチの記録席に最も近い位置に座る。ただし、一時的にベンチを離れてもよい。

(3) 監督は試合を妨害あるいは遅延しない限り、アタック・ラインの延長線からウォーム・アップ・エリアまでのフリー・ゾーンの範囲内では、立ったままで、あるいは歩きながら指示を与えることができる。

(4) コーチ、マネージャーはベンチに座るが、試合に介入することはできない。

7 表彰

表彰は、競技終了後直ちに行い、1位から3位までを表彰する。

8 その他

本規則に定める以外は、令和3年度の財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則(国際競技規則)による。

ミニバレーボール実施要領（案）

1 競技規則

競技規則は、令和3年度ミニバレーボール協会競技規則によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 コート

- (1) コートは、バドミントン・ダブルスコート（13.4m×6.1m）を用いる。
- (2) エンドラインの後方の、両サイドラインの延長線内側にてサービスを行う。
- (3) ネットの高さは、2.0mとする。

3 チームの構成

- (1) 競技は6人制とし1チームに監督とキャプテンを置く。
- (2) 選手の交替は何人でも行えるが、ボールがデッドの時に審判に告げる。
- (3) メンバーチェンジの方法については、試合前にローテーションかメンバーチェンジかを主審に告げる。

4 招集

- (1) 招集は、ミニバレーボール会場で行うので、係員の指示に従うこと。
- (2) 招集は、競技開始時刻10分前に完了すること。

5 競技方法

- (1) パートごとによりリーグ戦を行う。
- (2) 各パートの順位決定は以下の順により決定する。
 - ア 勝利数の多い順
 - イ 取得セット率の大きい順（取得セット数／喪失セット数）
 - ウ 得失点差の大きい順（総得点数－総失点数）
 - エ 代表者一人による抽選
- (3) リーグ戦終了後に交流戦を行う。但し、交流戦の結果は順位には反映しない。
- (4) 主審、副審、線審はミニバレーボール協会員が行う。

6 ゲームの進行

- (1) 試合前に主審は、両チームのキャプテンを呼び、じゃんけんに勝ったチームのキャプテンにサーブ権かコートかを選択させる。
 - ア スターティングメンバーがアタックラインに沿って並ぶ。
 - イ キャプテンは主審側に立つ。主審の合図でポジションにつく。

ウ 乱打を3回行う。主審のサービス開始の笛で始める。

- (2) 競技はラリーポイント制、3セットマッチとし、2セット先取したチームをその試合の勝者とする。
- (3) 1, 2セット21点先取したチームが勝ち、1対1の場合3セット目は15点先取したチームを勝ちとする。
- (4) コートは各セットごとにコートチェンジをする。第3セットは、片方のチームが8点を先取した時にコートチェンジする。
- (5) サービスは2回とする。また使用できるサービスはアンダーサービス（下からのサービス）のみとする。
- (6) サイドアウトによりサービス権を得たチームは、ただちに時計の針と同じ方向へ位置を移し、前衛右の選手が後衛右に移動してサービスを行う。
- (7) ボールは、1人1回3人にて3回目に相手コートにネット以外の物体に触れることなく返球されなくてはならない。
- (8) 後衛の選手は、アタックラインより前から攻撃することはできない。

7 番号布及び監督章

- (1) 番号は、自分のチームで作成した1から始まる一連番号を書くこと。番号は背部に1枚付ける。
- (2) 監督は腕章を付けること。

8 表彰

表彰は競技終了後にパート毎に行い、1位から3位までを表彰する。

9 その他

- (1) タイムアウトは1セットにつき1回とする。
- (2) インプレー中は、選手およびボールが支柱、アンテナに触れた場合はアウトとなる。
- (3) ボールがネットにかかった時、1、2回目は有効、3回目はアウトとする。
- (4) 止むを得ず職員がチームのメンバーに入る場合は、そのチームはオープン扱いとし、表彰から除外する。

グラウンド・ゴルフ実施要領（案）

1 プレー規則

プレー規則は、令和3年度（公社）日本グラウンド・ゴルフ協会プレー規則によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 チームの編成（団体戦）

- (1) プレーは5人制とし、チーム毎に主将を置く。
- (2) 選手の交替は原則としてラウンド終了後に行う。ただしやむを得ない事故のある場合は交替を認める。

3 招集

- (1) 招集は、会場で行うので、係員の指示に従うこと。
- (2) 招集は、プレー開始時刻10分前に完了すること。

4 ゲームの進行

- (1) 先攻チームの全員が第1打を打ち終わってから、次のチームがスタートする。
- (2) ボールはあるがままの状態打ち、ボールの周りの障害物を取り除いたりしてはいけない。この反則は1打付加する。
- (3) ボールが、コース外（みぞなどに落ちた場合）に出た時は1打付加し、コース外に出た位置からホールに近寄らない方向に、クラブ1本分以内の所にボールを置いて次の打を行わなければならない。
- (4) ボールの進行方向に他の人のボールがあるときは、そのボールの持ち主はボールの後方にマークをし、ボールを取り除く。
- (5) ボールが他の人のボールに当たったときは、ボールの止まったところからプレーを始め、当てられたボールは当てられた本人が元の位置に戻す。
- (6) 1打目でホールポストに入ったときは、その選手の合計打数から3打引いて計算する。（ホールインワン）
- (7) チームの選手全員がプレー終了後、チーム全員の打数を合計し、少ないチームの勝ちとする。

5 プレー方法

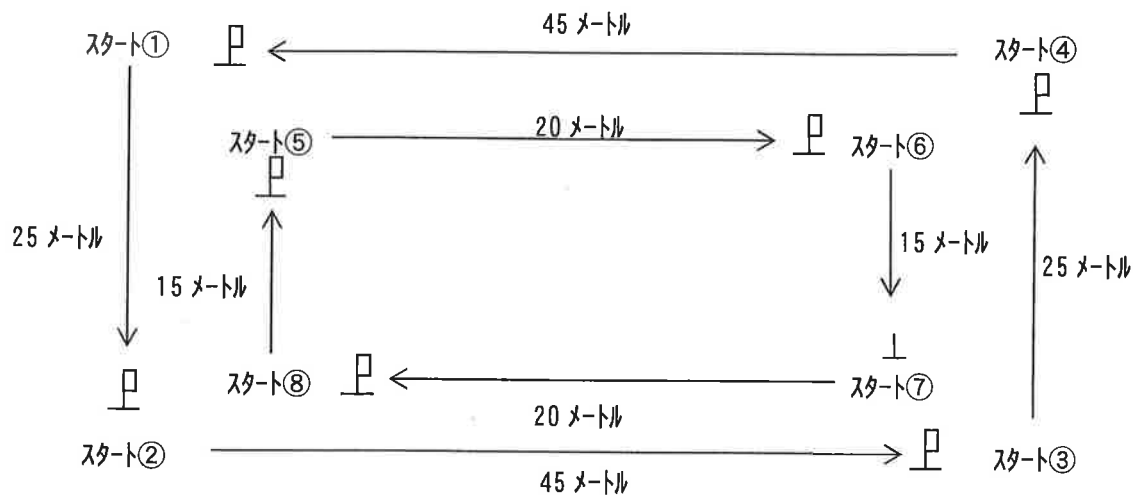
- (1) 会場には、標準の同一コースを3箇所（A～Cパート）設置する。
- (2) 異なる2チーム1組で1ホールを回り、1パート最大16チームがプレーする。
- (3) 各組所定のホールから一斉にスタートし、午前・午後で8ホールずつ回る。
- (4) プレーの進行はコート主任に従うこと。
- (5) ゲームの判定は、ペアを組んだ相手側チームの主将が行う。（判定が困難な

場合は、同伴プレーヤーの同意を求める。)

- (6) 打数の記録は記録員が行う。
- (7) 3つのパートでプレーを行い、パートごとにコースを2周した合計打数で優勝を争い、チーム全員の打数の合計が最も少ないチームを勝ちとする。
- (8) 各パートで、合計スコアが同率順位の場合は、以下の順で決定する。
 - ア ホールインワンの数
 - イ 2打の数(2打目でホールポストに入った数)
 - ウ チーム代表者によるニアピン対戦(30m)

6 標準コース

- (1) コースは内回りコース4ホール、外回り4ホール計8ホールとする。
- (2) コース図



7 番号布及び主将章

- (1) 番号は、自分のチームで作成した1から始まる一連番号を書くこと。番号布は、胸部と背部に1枚ずつ付けること。
- (2) 主将は腕章を付けること。

8 表彰

表彰は、プレー終了後パート毎に行い、1位から3位まで表彰する。

9 その他

止むを得ず職員等がチームのメンバーに入る場合は、そのチームはオープン扱いとし表彰から除外する。